



山中湖越しに富士山を望む
(2013年9月17日 渡邊瑛季 撮影)

地理空間学会ニュースレター

TOPICS

- ・第8回大会のお知らせ
- ・第8回大会巡検のご案内
- ・第18回例会の報告
- ・学会賞受賞者コメント(西野寿章)
- ・大会優秀ポスター賞受賞者コメント(渡辺亮佑)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(渡邊瑛季)

JAGS

第8回大会のお知らせ

地理空間学会では、第8回大会を下記の通り開催いたします。詳細は順次ホームページに掲載します。

【日程】

2015年6月20日(土): 研究発表, 評議員会, 総会(学会賞表彰を含む), 懇親会

6月21日(日): 巡検(千葉県柏市)

【会場】

筑波大学 筑波キャンパス 総合研究棟Aほか
(茨城県つくば市天王台1-1-1)

【交通】

○つくばエクスプレス「つくば駅」下車, A3 出口より6番乗り場へ向かい, 関東鉄道バス「筑波大学循環(左回り, 右回り)」または「筑波大学中央」行きに乗車, 「筑波大学中央」下車, すぐ。

(参考ウェブサイト)

https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html

【大会参加費】

○会員

・学部生・院生: 無料 ・一般: 500円



○非会員

・学部生：無料 ・院生：500円 ・一般：1,000円

※懇親会費は後日お知らせします。

【研究発表募集要領】

昨年同様に下記1)～5)の要領にて口頭発表とポスター発表を募集いたします。よくお読みのうえ、ふるってお申し込みください。

- 1) 単独発表は会員に限ります。共同発表の場合には発表者に会員が1名以上含まれていなくてはなりません。筆頭者は非会員でも構いません。
- 2) 同一の筆頭者の発表は口頭発表・ポスター発表にそれぞれ1つずつ可能です。
- 3) 口頭発表の時間は質疑応答・交替をあわせて20～25分です（後日決定します）。
- 4) ポスターは、掲示部分の幅が117cm、高さが150cmですので、最大限これ以内で作成してください。なおポスター発表では学会参加者の投票によって優秀ポスター3点を選定しこれを表彰いたします。ただし投票・表彰の対象は筆頭発表者が会員で、かつ本年3月末日において35歳未満であったものに限りです。
- 5) 応募手続き（口頭・ポスター共通）は以下の通りです：
(1) 以下のように作成した発表申込ファイルを5月6日（水・振替休日）までに電子メールの添付ファイルとして集会委員会<jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp>へお送りください。このメールの件名は「2015JAGS 大会発表申込み」としてください。申

込み締め切り日後の発表題目修正は原則としてできません。

・発表申込用ファイル（ファイル名：2015JAGS_name.xls）は地理空間学会ホームページの大会情報のページ（<http://jags.ne.jp/archives/836>）からダウンロードが可能です。これに必要な項目を記入し、ファイル名の”name”部分を筆頭発表者の氏名に置き換えて保存してください。

（例）名前が「地理 薫」の場合：

2015JAGS_地理薫.xls。

・1つの発表ごとに1つのファイルを作ってください。1人の筆頭者が2つ以上のファイルを作成する場合には、ファイル名末尾に数字をつけて区別できるようにしてください。

(2) 申込みが受理された方には発表要旨原稿の様式ファイルを、上記申込みファイルに記載された連絡先メールアドレスへ5月中旬までにお送りします。これを用いてA4版1ページ以内の発表要旨原稿を作成のうえ、そのファイルを6月9日（火）までに電子メールで集会委員会 <jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp>へ提出してください。

(3) 発表の諸要領につきましては5月中旬よりお知らせいたします。

お問い合わせは地理空間学会集会委員会 <jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp>へお寄せください。

第8回大会巡検のご案内

6月21日(日)に大会巡検がございます（雨天決行）。

【巡検テーマ】

変わる柏のまちづくり

—スマートシティと駅前再開発を巡る—

【オーガナイザー】

木村祐介・栗林 慶・坂本優紀・羽田 司・

包 慧穎・矢ヶ崎太洋（筑波大・院）

【集合場所・時刻】

9:30 つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅改札口前

【参加費】

500 円（保険料） ※昼食代，交通費別

【解散場所・時刻】

16:30 JR 常磐線柏駅改札口前（予定）

※巡検の参加には事前の申し込みが必要です。

巡検参加ご希望の方は、電子メールにて、件名に【巡検申し込み】、本文に参加者（全員分）の氏名、フリガナ、所属、生年月日、当日連絡のとれる携帯電話連絡先、メールアドレスを明記の上、矢ヶ崎 (tyagasaki@geoenv.tsukuba.ac.jp) までご連絡ください。

締め切りは 6月16日(火) です。具体的な巡検行程、

最新の情報につきましては、地理空間学会 HP (<http://jags.ne.jp/index.html>) に随時掲載します。なお、誠に勝手ではありますが、巡検行程や巡検の形式上、定員を30名程度といたします。また、締め切り以前でも定員に達し次第、受付を締め切らせていただくこともありますので、ご容赦ください。

第 18 回例会の報告

以下の通り、第 18 回例会を開催いたしました。参加者 33 名。要旨は「地理空間」第 8 巻 1 号に掲載します。

【第 18 回例会】

「地理学における知識・文化・創造」

○2015 年 3 月 8 日（日）14:00～16:45

○筑波大学東京キャンパス文京校舎 1 階 121 講義室

【報告者・題目】

1) 半澤誠司（明治学院大）

「文化と経済、そして地理が出会うとき
—文化（創造）産業研究は何を目指してきたのか—」

2) 古川智史（東京大・学術研究員）

「広告産業の地理的集積と創造性」

3) 森嶋俊行（東京大・学術研究員）

「企業の対地域施策における企業文化の役割
—産業遺産保存活用の事例を中心に—」

4) 総合討論



写真 総合討論の様子

（2015 年 3 月 8 日 橋爪孝介 撮影）

※例会後、和風居酒屋「たかの家」で懇親会を開催しました。参加者 24 名。

学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2014 年度学会賞の学術賞を受賞された西野寿章会員から受賞のコメントをいただきました。

学術賞 西野寿章会員（高崎経済大） 「地理空間学会賞をいただいて」

私がまとめた『山村における事業展開と共有林の機能』（原書房，2013）が，2014年度地理空間学会賞（学術賞）を受賞いたしました。学会より受賞のご連絡をいただいた時は，全く予期せぬ受賞に感激いたしました。審査に当たっていただきました先生方に心より感謝申し上げます。

この本は，2010年8月に愛知大学文学研究科に提出した学位請求論文です。2012年度の科学研究費出版助成によって刊行することができました。学位請求論文は，私の奈良大学時代からの恩師である藤田佳久先生（現愛知大学名誉教授）の定年の年に提出しました。一つタイミングが外れたら，学位をいただく機会を失っていた可能性があったことから，様々な偶然と出会いに感謝しております。

私は，1998年に『山村地域開発論』（大明堂刊），2008年には『現代山村地域振興論』（原書房刊）を世に問いましたが，学位を請求できる水準にはなく，学位論文の構想を持ちつつもなかなか具体化せずにおりました。可能であれば学位論文は，修論以来進めてきた戦前の山村における電気事業史でまとめたいと考えておりました。幸いなことに科研費が断続的に採択され，資料調査や現地での聞き取り調査も行い，コツコツ研究は進めていたのですが，卒業論文（「ダム建設に伴う水没村落の移転形態と村落構造」，人文地理 33-4，1981，pp.1-24）の研究水準を乗り越える研究をまとめられないことが悩みでした。信じていただけないかも知れませんが，未だ学部卒業論文の水準を乗り越えられないしております。

2007年度から4年間，筑波大学の田林明先生主宰の「農村空間の商品化」という科研費研究のメンバーに加えていただき，首都大学東京の菊地俊夫先生をはじめとした10数人のグループで研究する機会が与えられました。この科研費による研究成果は，田林明編著『商品化する日本の農村空間』（農林統計出版，2013）にまとめられました。これ以外に，地理学評論シリーズBに投稿することにもなり，筆者も渾身の力を込めて英文論文を書き上げました。この科研グループのリズミカルな成果の発表と論文化の研究スタイルによって，忙しくも充実した日々を過ご

しました。

この間，電気事業史研究は，少しずつ前進していましたが，藤田先生の定年までに学位論文は間に合わない可能性が高くなっていました。前述しましたように卒業論文のレベルを超えられる可能性のある研究がなかなか進まず，このことが大学に奉職して以降，学会誌への論文投稿を怠った最大の要因でした。学位は無理かと思っていた2010年2月，田林先生が主宰された科研費研究が終盤を迎えた頃，無意識のうちに論文博士の論文提出条件（査読論文4本）を満たしていたことに気づき，慌てて藤田先生に電話をしました。その結果，藤田先生の定年の年に学位請求論文を提出することが了解されたのでした。こうした機会を与えて下さった田林先生，菊地先生に感謝いたしました。

卒論，修論（人文地理 40-6）をベースとして，地理学評論シリーズB，E-journal GEO掲載の論文，紀要などに書いた論文を構成し，博士論文をまとめました。『山村における事業展開と共有林の機能』では，山村における戦前の電気事業の展開，戦後の半世紀以上も続く「むらおこし」，ダム建設に伴う水没村落の村落構造の形成や変化，過疎地域における共有林率と世帯増減の動きなどに，「共有林」が全て関わっているという独創的な結論が見出せたのでした。「共有林」が経済的価値を持っていた時代には，山村社会の紐帯として機能しましたが，木材価格の下落に伴う「共有林」の経済的価値低下，あるいは共有林そのものが存在しなかった山村では，挙家離村を促すことになったと考えたのでした。

東日本大震災発生直後に学位が授与され，同時期に，田林先生，菊地先生に促されて投稿した地理学評論シリーズBの論文が日本地理学会賞（優秀論文賞）をいただきました。このたびの地理空間学会賞同様，全く予想もしていなかったことだけに驚くと同時に，私の研究をお認めいただいたことに感謝の気持ちで一杯でした。学位にせよ，学会賞にせよ，自分ひとりの力では得られるものではなく，多くの先生方のご指導のおかげと感謝申し上げる次第です。このたびの地理空間学会賞も，一生忘れることの出来

ない受賞となりました。ありがとうございます。昨今の課程博士の学位取得者に比べると、まさしくウサギとカメであります。これからもより一層努力精進し、受賞者とし

て恥ずかしくない研究成果を積み上げていきたいと思っております。ありがとうございました。

❀ 大会優秀ポスター賞受賞者コメント

第7回地理空間学会大会（2014年、立教大学）において優秀ポスター賞を受賞された渡辺亮佑会員から受賞のコメントをいただきました。

優秀ポスター賞 渡辺亮佑会員（筑波大・院生）

この度は「徳島県海部郡美波町伊座利地区における漁村留学を通じた地域構造の変容」に対して、地理空間学会ポスター賞を賜り、大変光栄に思います。伊座利地区内外の皆様のご協力および先生方のご指導のあったの受賞であり、関わって下さった皆様にはこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。本ポスターは大学4年次の卒業論文が基になっております。私の興味・関心は過疎地域の存続や振興に関するものであり、卒業論文では漁村留学という、他地域から小中学生とその家族を呼び込み、定住させて現地の学校に通わせるといった過疎地域存続の取り組み事例から、その前後で地域がどのように変化したのかを研究しました。地域住民と関わりながら、にぎわいを取り戻した地域のサクセスストーリーのプロセスを明らかにしていくことは「楽しさ」があったものの、あくまで研究者として第三者的な視点で地域に入り込むこと、また論文としてまとめるうえでのあらゆる「難しさ」に直面し、苦い経験にもなりました。ポスター発表では多くの方々からのアドバイスやご指摘をいただき、それぞれの「地理学的視点」の多様性とその明瞭さを実感した一方、私自身のアプロー

チが定まっていないために、お返しできる言葉に詰まり、議論の難しさに歯がゆい思いもしました。大学院1年次では自分なりの地理学的視点を見つけようと試行錯誤していますが、未だ五里霧中の状態です。修士においても卒業論文のテーマの延長線上で研究を行おうと考えております。今後も日々精進していきますので、ご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



写真 ポスター賞表彰式にて

（2014年6月28日 新井悠司 撮影）

❀ 学会からのお知らせ

＜会計委員会からのお知らせ＞

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若

干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第7巻2号に同封した振

込用紙でお支払いください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

[年会費の振込先]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ”ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会費 2,000 円

学生会費 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

[地理空間学会学術基金の内容]

○名 称：地理空間学会学術基金

○目的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：102万円（何口でも可能です）

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クシ”ユツキケン

※基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。※2015年4月17日に平岡昭利会員よりご寄付をいただきました。ありがとうございました。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研

究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。

私のフィールドのひとつである山梨県南都留郡山中湖村（図1）は、世界文化遺産である富士山やその構成遺産のひとつであり、村名の由来にもなっている山中湖に象徴される自然豊かな観光地として知られています。観光地としての歴史は主に第二次世界大戦以後であり、1960年代からの日本におけるマス・ツーリズムの発達とともに宿泊施設が多数立地してきました。山中湖村観光課の統計によりますと、宿泊施設の数はいくつかのピークを迎え、その後減少傾向の一途をたどっています。山中湖村の宿泊施設の中でも数が多いのが、民宿、保養所、ペンションです。民宿はスポーツ合宿を行う学生を中心に受け入れており（写真1、写真2）、また保養所は1990年代後半以降著しく減少していますが、主に民間企業の福利厚生のための施設として機能してきました。ペンションについては近年名古屋、関西方面からの修学旅行生（主に中学生）を合同で受け入れ始めています。このように、山中湖村の宿泊施設を利用する観光者の多くは、こういった属性や来訪目的を持った人物なのかがある程度決まっているというのが特徴です。

2013年6月に富士山が世界遺産になり、自動車で東京から約2時間で来訪できるという一大市場との近接性から、山中湖村は観光地として非常に有利とみられがちですが、宿泊施設の経営をみているとそうとはいえない状況にあります。平野地区の民宿のある経営者は「富士山が世界遺産になった恩恵はほぼ無い」と言いますし、保養所から民宿に転換した世帯の多くも後継者がいません。いわゆる日帰り観光が進展した（写真3）とはいえ、近隣の観光地である富士河口湖町や箱根町のようになぜ宿泊者が増加・維持できないのか、という疑問に答えるために首都圏というスケールで様々な地域を比較しながら研究していきたいと思っております。

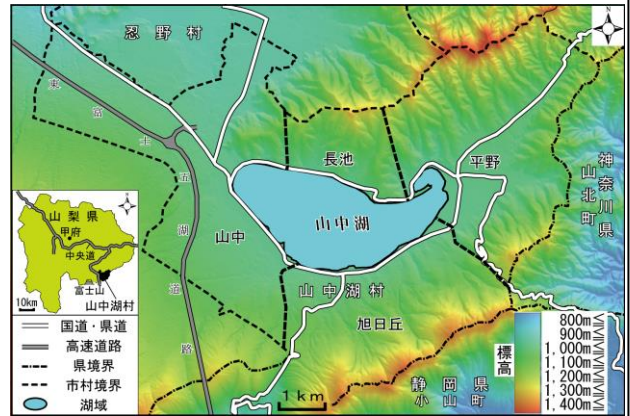


図1 山中湖村の位置と地区割り



写真1 私立大学インカレテニスサークルの合宿の様子
（2013年8月17日 渡邊瑛季 撮影）



写真2 収容人数250人、テニスコート28面にも及び
家族経営民宿
（2013年9月17日 渡邊瑛季 撮影）



写真3 山中湖畔沿いに駐車される観光者の自家用車
(2013年8月4日 渡邊瑛季 撮影)

編集後記

寒い冬が過ぎ、つらい花粉症の時期が終わり、暖かな春がやってまいりました。新年度となり、新たな会員を迎えることと思いますが、何卒よろしくお願いたします。また6月20日に筑波大学筑波キャンパスにて第8回大会が開催されます。翌6月21日には千葉県柏市での巡検を企画しております。発表申し込みの締め切りは5月6日です。皆様のご発表・ご参加を心よりお待ちしております。

ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト(jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp)を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第22号

発行日：2015年4月24日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>